

第9回 (仮称)新宿区産業振興基本条例に関する懇談会 議事要旨

【日 時】 平成22年8月24日(火) 午後3時~5時

【場 所】 BIZ新宿(区立産業会館) 3階 研修室A

【出席者】 中山新宿区長

委員:植田、関、加藤、久保、志村、富田、藤田、福田、小池、渡邊、酒井各委員

事務局:小沢産業振興課長、荒井産業振興係長、白田主任主事、松波主任主事

後藤産業創造プランナー

【欠席者】 坂本、上田委員

【傍聴者】 1名

【内 容】

1 開 会

2 提言書の説明、区長へ提出

植田会長が提言書の説明を行った後、区長へ提出した。

3 区長あいさつ(要旨)

素晴らしい報告をまとめていただきうれしく思う。皆さんからの活発なご意見をいただき、新宿ならではの条例になるのではと思っている。事業者、区民、産業団体、区の四者がどのように役割を持って約束をし、かつ互いに発展していけるような条例にできるか、行政には大きな役割があるのだと責任を感じている。懇談会での活発な議論が、思いのこもった前文になっていると思う。

条例素案をいただいて、このあと各主体が実力を発揮し条件整備をして、このまちが持続ある発展をしていくために、互いにどう努力できるのかが試されているのだと考えている。

生活と産業とがつながり、そして環境問題が調和して、社会の持続ある発展を生み出していくのではないかと感じている。区の総合的な施策の推進の中で、産業振興施策を体系的かつ持続的に実施していくための基本的なことをまとめてもらったことに感謝している。区はこれを大きなステップとして歩んでいきたい。

4 懇 談

各委員より懇談会に参加した感想を述べた後、中山区長との懇談を行った。

(主な発言内容)

- ・いくつかの企業が集まって事業を行おうとする機運が高まってきた。協業化にどう取り組んでいくか、条例のもと、どんどん進めていきたい。
- ・新宿区は単に行政区としてではなく、それを越えた大きな存在感のある区だと思っている。新宿区で行うことが他の区の目標となり、手本になり、注目されていると感じている。
- ・懇談会に出席して、商店会の持つ役割をしっかりと認識してビジョンをもって引っ張っていくことが必要だと痛感した。行動、実行していくことが大事だと思っている。
- ・新宿は多様性を持ったまちで、ひとつの条例ですべてを縛るというのは大変なことだと思った。今後条例をどう活かして、実際に産業を振興していくのが非常に楽しみである。
- ・区はすでに充実したメニューで産業振興をしているので、条例が制定された後は、さらに充実した支援策をつくられることを希望している。
- ・この懇談会を通じてでしかわからなかった新宿のよさや歴史、将来に向けてのポテンシャルを教えてもらった。懇談会の回を重ねるごとに委員の熱い議論に刺激を受けた。
- ・生まれてからずっと新宿に住んでいて、非常に長い間新宿を見てきているはずだが、何も見てきてな

かったということがよくわかった。

- ・条例によって新宿区が活性化して、内側ばかりに向いているのではなく、さらに大きくもっと外に向かっていくきっかけになるとよいと思う。
- ・素案では9条で施策の実施状況を毎年一回公表する、10条で会議体を設置するということが書かれていて、それは素晴らしいことだし、是非実施して欲しい。
- ・新宿区を知れば知るほど、産業の厚みと多様性、国際性を感じ、他の自治体からみるとうらやましく思う。産業振興の土台がここに確立できたことは、日本の活性化に向けて重要なことだと思うし、自治体だけでなく、様々な主体が役割を担うことは新宿区の条例にふさわしいと感じている。
- ・土台ができたからには、しっかり取り組んでいかなければならない。これからが本番という感じがする。区民の思いを汲み取って、どのような政策と戦略をつくるのか、条例づくりに携わった者のこれからの役目だと思う。
- ・区の責務に「産業振興を担う人材を発掘し育成する」「区は基本的施策の実施にあたって、十分な組織体制を整備する」という文言があるが、行政の制度づくりは人づくりであるので、今後も引き続きお願いしたいと思う。
- ・懇談会の成果の一つとして、委員それぞれの話を聞いて、新しい発見や新しいネットワークが生まれてきて、刺激しあって新しい事業が展開されるということが出てきている。また、それぞれの団体で新しいことが生まれてきているのは素晴らしいことである。
- ・21世紀はどのような時代になるかわからないが、それだけに混沌としたカオスのような状態から新しいものが生まれてくるのだろう。新宿は日本でいちばんカオスのような状態だと思うので、うまく活用して日本のリーディングシティのようなまちになると、新宿にとってプラスになり、日本にとってもプラスになるのではないか。これをどう産業振興に吸収し、展開していくかが今後の課題だろう。
- ・このようないい条例が、誰でも、家庭の主婦でも何か始めたいという行動を起こすようなきっかけになるといいと思う。
- ・事業者が産業振興施策を利用していないというのは、事業者の責任もあるが、行政の広報不足で認知度が低いということではないか。せっかくいいものをつくっても知られないというのは残念なので、この条例は時間をかけてPRし、認知される努力をするべきである。
- ・新宿の11%が外国人だということだが、ハーフやクォーターは入っていない。それらをカウントすると膨大な数になり、さらに増えていく一方であると思われる。これからはその人たちの力を借りていくことが重要だと思う。
- ・新宿は高いポテンシャルをもっていると思うので、この懇談会のように皆で話し合い、学びあって何か新しいものをつくっていけるような懇談会をつくってはどうか。
- ・新宿から産業が生まれなかったらどこから生まれるのか。日々いろいろなところにチャンスがある。そのチャンスをどうやって形にしていくのか、誰がするのか、いつするのか課題である。今の日本はそういう時間軸で躊躇していると思う。
- ・委員の皆が今感じているワクワク感をそれぞれの業界に持ち帰り、軸となって新宿を盛り上げていくことが最初の一步目だと思う。

5 今後の予定

9月下旬～10月下旬	パブリックコメント実施
10月15日(金)	パブリックコメント地域説明会
10月18日(月)	産業振興フォーラム(シンポジウム)
12月14日(火)	第10回懇談会開催

6 閉会

【配付資料】

- 資料1 第8回 議事要旨
- 資料2 第8回 主な発言内容
- 資料3 (仮称)新宿区産業振興基本条例に関する提言書